



会長
森川 伸治

～ “全集中の呼吸” で業界（会員）を守る時 ～

新年明けましておめでとうございます。令和3年の幕開けは、コロナ禍で新しい年を迎えるという未曾有のお正月となりました。この度の感染症拡大により影響を受けられた多くの方々に、謹んでお見舞い申し上げますとともに、感染により犠牲者となられた方のご冥福を心よりお祈り申し上げます。また、医療現場で感染者対応の医療従事者の皆様には心より敬意を表するとともに感謝を申し上げます。

新型コロナウイルス感染症(COVID-19)は、中国の湖北省武漢市における集団発生を皮切りに、瞬く間にパンデミックを引き起こし、昨年1月には我が国でも初発例を確認、欧米諸国は次々に医療崩壊に陥りました。ウイルス名「SARS-CoV-2」と名付けられたこのウイルスの脅威から、世界各地はロックダウンし、世界中の街や観光地からは人が消え、国際的な物流や人々の往来は、未だ困難な状況が続いています。待ちに待たれた「TOKYO 2020」オリンピック・パラリンピックの延期をはじめ、スポーツや芸術、コンサートなど、全ての大規模イベントの開催が制限されました。また、我が愛知県柔道整復師会においても、出席者を最低限に絞った定時総会を、愛整会館内にて執り行いました。療養費適正調査会・理事会は書面審査(紙ベース)のためマスク・検温・手指消毒を徹底し、3密を避けて対面で行いましたが、支部長会等は、可能な限りZoom等の遠隔会議システムを用いることで感染拡大防止に努め、昨年3月以降に予定されていた県民への公開講座、少年少女柔道大会、学会、研修会などに関しては全て中止

を決定いたしました。特に文部科学大臣杯争奪「日整全国少年柔道大会、柔道形競技会」は、台風19号に伴って開催を断念した一昨年に続き、2年連続の中止となってしまい、夢の大舞台を失ってしまった子供達の悔し涙は、想像するに堪えません。

柔道整復業界は、政府による緊急事態宣言発令中であった令和2年4月21日を以て、柔道整復術公認100年を迎え、国民から信頼される日本伝統医療の担い手としての柔道整復師業界へと、新たな一步を歩み始めたところでした。しかし、自粛要請と新型コロナウイルス感染への懸念が重なり、来院患者数が急激に減少したことで、施術業務の継続が困難な事態となっている施術所からの相談も相次ぎ、業務の存続を揺るがす苦境に立たされているのが現状です。そのような中、我が愛整会は、コロナ禍における会員助成・支援策として全会員に対して給付金2万円、マスク1箱50枚、2ヶ月分の定額会費免除など総額約3万円を助成、また、愛知県をはじめ県内複数の市町村と「災害時の柔道整復師救護活動に関する協定書」を締結していることから、我々柔道整復師も医療対象施設であるとして、愛知県と県下54市町村の内、52市町村に応援金・支援金の要望書を提出し、愛知県からの「新型コロナウイルス感染症対策施術所内感染防止対策事業費補助金」の支給に加えて、「ナゴヤ新型コロナウイルス感染症対策事業継続応援金」(名古屋市)ほか、15市より、8～20万円の応援金・支援金の支給を受けることができました。この要望に際して、柔道整復師の業

務が、社会生活維持に貢献する事業であると認められた背景には、会員の先生方が、これまで長きに亘って地域社会に貢献し、それぞれの地域で築き上げてこられた信頼関係があり、これらの積み重ねが事業継続支援に結びついたものと、感謝申し上げる次第です。

引き続き、コロナ禍における持続可能な業界支援はもちろんのこと、地域包括ケアシステムにおける柔道整復師の訪問ケア参入、高齢者等に対する柔道整復師の訪問運動機能向上事業導

入、違法広告の規制強化など、withコロナ時代の業界生き残りを賭けた、行政への強い働きかけを喫緊の課題として、柔道整復業界の生殺与奪の権をしっかりと見極め、役員一同、全集中の呼吸で業界を守っていく所存でございます。

今年も、本会の諸事業に対しまして多大なるご理解、ご協力を賜りますことをお願い申し上げます。年頭のご挨拶とさせていただきます。

令和3年 元旦

新春を迎えて



愛知県知事
大村 秀章

あけましておめでとうございます。

新たな年が、県民の皆様にとりまして素晴らしい1年となりますよう、心からお祈り申し上げます。

昨年は、新型コロナウイルス感染症により、県民生活や経済活動に大きな影響が生じる中、愛知県では、県民の皆様にご協力いただきながら、「感染拡大防止・医療」「県民生活」「経済」の3つの対策を柱に、感染防止と社会経済活動の両立に取り組んでまいりました。

こうした中でも、ジブリパークの本体工事着手や、国内最大のスタートアップ支援拠点「ステーションA i」事業開始など、ウィズコロナ・アフターコロナを見据えつつ、「愛知」を「新起動」させる取組を進めた1年となりました。

世界は、新型コロナウイルスの感染拡大、グローバル化やデジタル化の加速度的な進展などにより、日々刻々と変化し続けています。愛知県が活力を維持し、日本の成長エンジンとして、我が国の発展をリードし続けるためには、そう

した変化に的確に対応し、新たな付加価値を生み出していかなければなりません。

今年も、国内外のネットワークを活用して最先端の技術・サービス・人材を取り込みながら、モノづくり産業と融合した愛知独自のスタートアップ・エコシステムを推進し、新たな付加価値を創出し続ける「愛知発イノベーション」の実現を目指します。

あわせて、ジブリパークの整備を始めとした愛知の魅力を高める取組を着実に進め、国内外での愛知のプレゼンスの向上を図ります。

また、リニア大交流圏を見据えた社会インフラ整備、農林水産業の振興、教育・人づくり、女性の活躍、医療・福祉、環境、雇用、多文化共生、防災・交通安全、東三河地域の振興など、県民生活と社会福祉の向上にもしっかりと取り組んでまいります。

愛知県では、今年も、ロボカップアジアパシフィック大会・ワールドロボットサミット、世界ラリー選手権などのビッグイベントが開催さ

れる予定です。万全の準備を整え、愛知の魅力を世界中に発信してまいります。

県民の皆様笑顔で元気にお過ごしいただけるよう、昨年策定した「あいちビジョン2030」の基本目標「暮らし・経済・環境が調和した輝く

あいち～危機を乗り越え、愛知の元気を日本の活力に～」の実現に向け、全力で取り組んでまいりますので、一層のご理解とご支援をお願い申し上げます。

令和3年 元旦

年頭所感



名古屋市長
河村 たかし

“「いのち」と「暮らし」を全力で守り抜くマチ ナゴヤ”

年頭にあたり、謹んでご挨拶を申し上げます。愛知県柔道整復師会の皆様には、新しい日常の中で、新たな年をお迎えのことと存じます。

昨年は、世界規模で新型コロナウイルスの感染が拡大し、ここナゴヤにおいても苦難を伴う1年間となりました。その中において私ども行政は、迅速にPCR検査や適切な医療に結び付けられる体制の構築に向けて、さらには、市民の皆様の雇用と事業者の皆様の商売を全力で応援し、社会経済活動を支えるため懸命に対策を講じてまいりました。

市民の皆様の「いのち」を守る取り組みとしては、検査・医療体制の拡充を図るとともに、積極的疫学調査においては全国に先駆けて感染可能期間を発症の2日前からとするなど、国基準より幅広い対象者に対し、地道で丁寧な健康観察を実施してまいりましたが、このナゴヤのいわゆる「柔らかい隔離」は、行政が直接的に関わることのできる最も有効な感染防止対策であると自負しております。

そして、商売・雇用の灯を絶やさず「暮らし」を守る取り組みとしては、「ナゴヤ信長徳政プロジェクト」と銘打ち、市内金融機関と連携し

て中小企業者への資金繰りを全面的に支援したり、新しい生活様式等に対応した日本で一番使いやすい設備等導入補助金を新設するなど、社会経済の活動レベルの維持に努めてまいったところです。

私としては、戦後の焼け野原から不死鳥のごとく復活し、世界でも有数の都市へと発展した我がマチ ナゴヤであれば、必ずやこの苦難を乗り越えられるものと確信しており、そのためには低迷する社会経済の回復を牽引する中長期的な視点に立った積極的な公共投資が必要不可欠であると認識しております。

今後ともこの方針のもとに、全ての市民・事業者の皆様の「いのち」と「暮らし」を絶対に守り抜くため、新型コロナウイルス感染防止対策と社会経済の活性化に全身全霊で取り組んでまいります。

本年もどうぞよろしくお願いいたします。

令和3年 元旦



愛知労働局長
伊藤 正史

新春を迎え、謹んでお慶びを申し上げます。

令和3年の年頭に当たり、公益社団法人愛知県柔道整復師会の皆様の日頃からの愛知労働局の行政運営に対するご理解とご協力に改めて御礼申し上げますとともに、今年一年の所信の一端を述べさせていただきます。

昨年令和2年は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大が、社会経済活動全般、ひいては雇用・労働環境等に広範な影響をもたらした年でした。

本県でも、こうした環境下で、昨年7月に昭和38年1月の統計開始以来、初めて有効求人倍率が全国平均を下回り、10月分速報値で1.02倍の水準に留まっています。徐々に回復の兆しがみられるものの、なお不透明な要素が残り、引き続き注視が必要な状況と認識しています。

当局としては、こうした厳しい雇用環境の下、労働条件確保・改善対策については、時間外労働の上限規制、年次有給休暇の年5日以上の実施など働き方改革関連法について、引き続き、周知啓発を行うほか、コロナ禍でも一部業種では長時間労働が認められることから、長時間労働の是正及び過重労働による健康障害の防止のため、監督指導を重点的に実施することにより、その遵守を図ってまいります。

労働安全衛生の確保については、第13次労働災害防止推進計画の目標達成に向け取り組むとともに、働く人がその能力を十分発揮し、安心して働くことのできる職場環境が実現できるよう、治療と仕事の両立支援などを促進してまいります。

また、労災事故で被災した方々が速やかに治療を受け、リハビリや職場復帰のための指導を受けられるよう、引き続き迅速、公正な給付を行い、被災労働者の生活の安定に努めてまいります。

以上を始め、本年も様々な施策を行ってまいります。社会全体としても、各企業においても、引き続き「ウイズコロナ」での難しい舵取りが求められることとなりますが、本年が皆様にとって良い年になりますよう祈念いたしますとともに、今後とも皆様のご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます、年頭のご挨拶といたします。

令和3年 元旦



公益社団法人愛知県医師会 会長

柵木 充明

明けましておめでとうございます。

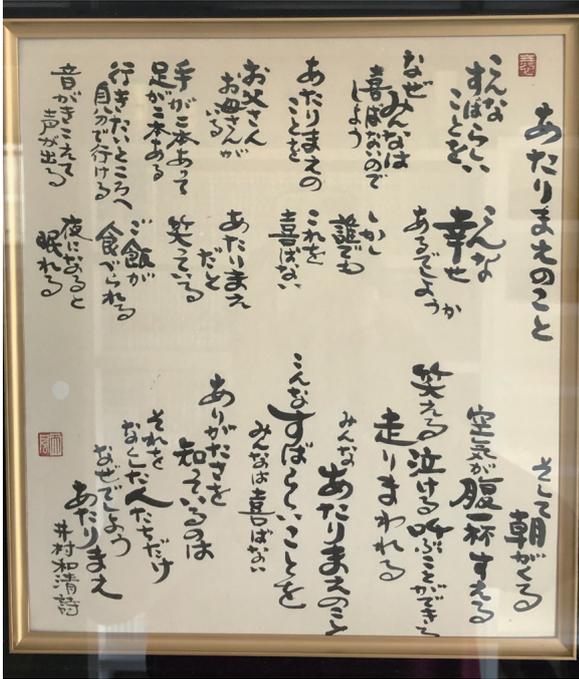
昨年は年明けから中国武漢で発生した新型コロナウイルス感染症が世界中に広がり、パンデミックを引き起こしました。感染者数はこの稿を書いている11月下旬で5,800万人、死者は140万人とされています。新年にはこの数字がどのように変化しているのでしょうか。新型コロナウイルスが発見されてから約1年が経ち、その性格も明らかになってきております。インフルエンザの0.1%以下の致死率に対し、新型コロナウイルス感染症の致死率は国によって違いますが、日本では1.5%とまだまだ危険なウイルスと言えます。症状的にはインフルエンザと区別が付きがたく、厄介なことは、感染を引き起こすウイルスの排出期間が両ウイルスでは違うことです。国内政治で最大の課題がこの新型コロナウイルス対策です。

冬にかけてインフルエンザ流行期とも重なることが危惧され、厚生労働省は発熱患者対策として、かかりつけ医、開業医が発熱患者の相談を受け、指定された医療機関が診療・検査医療機関として発熱患者に対応することになりました。感染拡大する中、国の対策は今のところ、国民一人ひとりの行動変容です。3密を避け、マスクに手洗い、換気を十分行い、「うつさない、うつらない」のかけ声でこの難局を乗り切ろうとしているようにみえます。新型コロナウイルス感染症が流行して以来、医師会の存在がこれほど世間の注目を浴びたことはなく、それだけに医師会は国民、県民の期待に応えなければならないと考えています。

新型コロナウイルス感染症が世界中を席卷する中、新しい年を迎えました。医学史上初めての早さと手法でワクチンも開発され、今年中には国民に接種される予定です。新型コロナウイルス感染症が1日も早く収束することを祈念し、柔道整復師会の皆様方におかれましては、引き続きご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。新年のご挨拶といたします。

令和3年 元旦

Photo Gallery



■ 待合室に掛けた1枚の色紙 (ふれあい)



■ 帰一賞受賞 (トピック)



■ 記紀にある疫病の話 (ふれあい)



■ 松平郷 (ふれあい)



■ 銀杏 (ふれあい)



■ 桜城橋と徳川四天王・酒井忠次の石像（ふれあい）



■ 我が家の宝物（ふれあい）



■ ブラジリアン柔術 レアンドロ草野先生との出会い（ふれあい）





■ 豊橋市介護予防体操教室参加について（豊橋）



■ 支部新型コロナウイルス感染予防対策…（半田）



知多半島 野間埼灯台

笠寺支部広報担当

山口 敬史

昨年11月25日撮影。大正10年に設置点灯され愛知県内の灯台の中では最も古い灯台といわれ、高さ約18m 光達距離約25km、伊勢湾を守る現役の灯台です。灯台の近くには“終止線なく永遠に”という願いから、五線譜をモチーフにしたモニュメント「絆の音色」があり、南京錠を掛けると恋愛が成就するというジンクスがあり撮影中も多くのカップルが集まっていた。

